

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会)：2008.6.6~7(北海道大学)
 企画論文部門，若手研究者論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：まちづくりと公共交通の再生	
日付： 6月 6日 (金)曜日，セッション時間：9:00 ~ 10:00	
オーガナイザー・司会者名(所属)： 土井 勉(神戸国際大学)	
討 議 内 容	セッション全体：「まちづくりと公共交通の再生」のうち、総論及び鉄道に関する発表 4 件のセッションである
	(31) 公共交通・負のスパイラルからの脱却について 土井 勉(神戸国際大学) 発表者のコメント：公共交通系の論文のセッション・発表数の増加が著しく、今年は去年の 32 から 70 に増えた。鉄道では、混雑緩和から需要創造・利用促進へと課題が変わっている。交通政策と財政支援が必要であるが、生きたデータが不足している。生きた研究成果が必要である。
	(32) 京阪神都市圏外縁部の鉄道事業の現状とその再生に向けた課題 木内徹(財団法人千里国際情報事業財団) 発表概要：利用者減少の著しい神戸電鉄粟生線の現状と課題についての報告であり、自治体を含む地域の関係者の協働、地域住民の理解、利便性向上の努力と P R の重要性が提示された。 質問・コメント ・バスならまだ工夫できるが、鉄道の場合は、固定したインフラとしての難しさがある。パイの減少の中での公共交通同士の競争は、問題である。
	(33) 既存路線を対象とした需要喚起方策の導入効果分析 金友啓太(名古屋大学) 発表概要：愛知県の東部丘陵線を例に、需要喚起方策への交通需要評価モデルを構築、公共交通の利用促進策を検討 質問・コメント ・現状は 1 日で 1.4 万人の利用で、もともとの計画目標は、1 日 3 万人ということだ。どのようなサービスを提供すればよいかということだが、そもそも、3 万人とは、どのような根拠なのかが問題だ。 回答 当初の交通需要予測が過大予測だった。その問題点を解決することが必要。 ・他地域でも、整備計画の段階では、需要を上乗せしがちであり、そのツケをどう解消するかが課題であろう。
	(34) 鉄道会社と商業施設の連携による地域の活性化 中島良樹(神戸大学) 発表概要；交通系 IC カードを活用した、利用者へのインセンティブ付与による「鉄道と商業施設の連携システム」の社会実験と効果分析 質問・コメント ・交通 IC カードの乗車履歴は個人情報であり、分析に当たって、個人情報保護法的な対応はどうしたのか。 回答 今回、大学がもらっているのは、生のデータそのものではない。最低限のデータであって、その内容は、利用年月日、出発駅と着駅、定期区間か否か、であり、ユニークな ID は含まれない。

・商業者には、駐車場では1マスで年間売上高が1,000万円は必要、SCから鉄道事業者のインセンティブは得にくい。鉄道利用による年間のコスト・利益とか、そういうことがわかればいいのではないか。

(全体について)

・セッション全体として、お金への換算、フィージビリティの検証がないように思う。それがあれば、展望が開けるのではないか

・売り上げ、駐車場の維持と比べたメリットとかをきちんと参照でき、わかりやすく提供することが必要だ。「環境」ならMMとかがあるが、商業施設にも、データ等が必要。

・研究成果は蓄積されつつあるが、具体的なキメになるデータがあまり見当たらない。環境なら、たとえばCO2の排出量の比較がある。公共交通と雇用の拡大の関係等も含め、データの蓄積、データの交流が必要だ。考えるのではなく、実行への時期にきている。